



ツインタワーとなり、福井大学の新たなシンボルタワーに。(総合研究棟 I)



文京キャンパスの中心で、工学部と教育地域科学部のどちらからもアクセスしやすい総合図書館のエントランス。

明るい窓側にカウンター席を設けた閲覧室。(総合図書館)



福井大学は、「キャンパスマスタープラン2007」を作成、教育地域科学部、工学部のある文京キャンパスと、医学部のある松岡キャンパスをともに整備中だ。

文京キャンパスでは、2003年に建築した13F建ての「総合研究棟I」(西館)に新棟(東館)を増築、2008年9月にツインタワーとして竣工した。新棟の目玉は、10-13Fに新たに設置した「プロジェクト研究室」だ。これまで研究といえば学部ごとに行われてきたが、研究内容は変化が激しく、研究組織そのものも再編されていくなかで、時代

に柔軟に対応した研究を行うことのできる施設が求められていた。プロジェクト研究室では、学部・研究科の枠を超えた学内共同研究や、地元企業との共同研究などを実施する考えた。たとえば、2009年4月に設置された附属国際原子力工学研究所が、「安全と共生」を基本としてトップレベルの特色ある原子力研究開発および人材育成を目指し、このスペースを活用している。

6月には総合図書館をリニューアルオープンした。耐震改修と蔵書の収容スペースの確保を契機に、①何時で

も何処からでも利用できる“次世代”図書館、②知を求めて“集う”図書館、③知識と文化の集大成である資料を次世代に“継承する”図書館という3つをコンセプトに増改築を行った。次世代については、学術機関リポジトリを整備するとともに、平日の早朝と土日・休日の午前中を無人開館に、土日・休日の午後も有人開館とし、利用機会を増やした。集いの場としては、1Fに飲食可能なラウンジ、所蔵資料等を紹介する「展示ホール」なども設置した。

一方、松岡キャンパスでは、初期研修医をはじめ地域の医療関係者のた

めの「臨床教育研修センター」を4月に新築オープンした。1Fの「スキルラボ」では、コンピュータ内蔵の人形(シミュレータ)などを用いて、心肺蘇生法や採血などの実技練習を24時間行うことができる。さらに研修の合間の休憩や仮眠が取れ、研修医の交流の場となる「研修医室」も設置した。

また、福井大学の教職員、附属病院の医師・看護師のために開設した「はなみずき保育園」は、天然木を使った木造とし、環境に優しく自然を感じられるような、有機的かつ連続的な広がりのある設計が特徴だ。



ガラスカーテンウォールから柔らかな光が差し込む1Fロビー。(臨床教育研修センター)

100人収容の「メイン(白翁会)ホール」は、病院職員や地域医療関係者が研修会や講演会に使用する。(臨床教育研修センター)



パソコン10台、奥には3台の個人ブースを備えたマルチメディアコーナー。(総合図書館)

災害ベンダーを備えたラウンジは、庭園の水の流れを眺めながら寛げる憩いのスペース。(総合図書館)



東と南に光を取り入れる大きな三角窓を作り、エネルギーと風が流れるような空間を目指した。(はなみずき保育園)



L字型の外観は、空間を広く見せつつ、連続的なつながりを出すのが狙い。(はなみずき保育園)

